

第3群（活動報告）

高病原性鳥インフルエンザ発生時における栗原地域事務所の取組について

発表者(筆頭者)所属・氏名 北部保健福祉事務所栗原地域事務所 技術副所長兼環境衛生部長 佐々木 豊
○技術次長(総括担当兼班長) 松野 あやえ

キーワード: 平時の準備, 所内外の協力体制, 連携

I はじめに

平成 29 年 3 月, 県内初となる高病原性鳥インフルエンザが栗原圏域の養鶏場で発生した。当所は発生地事務所としての活動を行った。今回, 平時の準備及び発生時の対応, 主に健康調査活動について報告する。

II 方法・活動内容

(1) 平時の準備

毎年, 鳥インフルエンザ対策本部栗原現地地域部の体制確認, 対応マニュアル等の確認・見直し, 防疫演習への参加を行ってきた。

(2) 死亡野鳥での発生

平成 28 年 11 月(登米)及び12月(栗原)に死亡野鳥で高病原性鳥インフルエンザが発生し, 県対策本部及び現地地域部が設置された。当所では死亡野鳥回収者 2 名の健康調査と健康相談等を行った。

(3) 所対応マニュアルの改訂等

死亡野鳥での発生により危機感が増し, 所対応マニュアル改訂を検討し, 研修, 打合せ等を実施した。現地地域部内の打合せ等は開催されなかった。

(4) 養鶏場での発生

平成 29 年 3 月 24 日, 栗原圏域の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生し, 県対策本部及び現地地域部が設置された。防疫活動(約 22 万羽の殺処分, 埋却等)は 24 日未明に開始され, 27 日未明に終了した。

当事務所は 23 日から 27 日まで 24 時間体制を敷いた。

(5) 健康調査活動

抗インフルエンザウイルス薬については, 薬務課と協議し, 疾病・感染症対策室に供給要請し, 現地事務所と当所に配置した。

防疫従事者健康調査は現地事務所を実施し, 最終 11 クールの従事後の健康調査は栗原合庁で実施した。モニタリング中に発熱相談が 1 件あり, 第二種感染症指定医療機関との受診調整及び検体搬送を行った。

養鶏場従業員等健康調査は養鶏場管理獣医師と連絡調整し, 従業員等 10 名に実施した。24 日時点で自宅待機従業員が 3 名(うち管外 1 名, 県外 1 名)おり, 自宅待機者については個別に対応した。モニタリング中含め, 有症状者はいなかった。

III 考察

今回, 72 時間以内に防疫作業が終了できたことは, 各部署の取り組みの成果で, 防疫従事者健康調査については, 保健福祉部全体で取り組んでいただいたことで無事に終了できたと考える。

平時, 高病原性鳥インフルエンザの発生に対して, 現地地域部の体制確認, 対応マニュアル等の確認・見直し, 防疫演習への参加などを行い, 所内での準備を進めていた。しかし, 養鶏場で発生した際には, 初めての対応, 情報不足, 想定外等により戸惑うことが多かった。

初動時は, 現地事務所レイアウト, 防疫従事者名簿等の情報が不十分で, 防疫従事者健康調査チーム編成にも混乱があったが, 主管課等への連絡及び所対応マニュアルにより健康調査活動等の準備を進めた。また, 現地事務所での責任部署が確認できず, 現地地域部との連絡等の支障もあった。

今回の活動をとおり, 現地事務所レイアウト及び各班の役割の事前確認, 健康調査チームの事前編成等の準備, 健康対策班活動内容の具体的な確認等平時の準備の重要性を強く感じた。

IV おわりに

今年度の現地地域部では, 防疫演習及び打合せを開催し, 顔の見える関係ができ, 意見交換ができるように変化してきた。今後も関係部署と連携し, 協力体制を構築しながら, 発生時に備えた準備に取り組んでいきたい。